

## 令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校・同中等部	校長名	石川 芳恵
------	------	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%（中・高共通）	中等部 88.2% 高校 82.3% 全校 83.6%	A	成果目標の達成は教員が授業リサーチやICT機器を活用していることの証左と考える。今後は、教務課と研修課が連携して次期学習指導要領に対応した授業実践のための取り組みをしていく。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%（中・高共通）	中等部 66.9% 高校 79.9% 全校 73.4%	C	学習の計画や時間の記録をすることで、見通しと振り返りができるように指導している。今後は、クラッシーを活用するなど、学習時間の可視化ができるようにしていく。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計12回 美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回	校内演奏会6回、校外演奏会2回、公開レッスン1回、課外授業3回、計12回実施。 美術鑑賞2回、実技講習会9回、計11回	A	予定通り実施できた。芸術科生徒の専門的な知識、技能の向上につながった。今後も継続していく。
		芸術科を本校の特色として感じている生徒の割合：80%	中等部 90.3%、 高校 81.8%	A	芸術科の活動を紹介する努力を継続していく。
		授業公開週間実施回数：年間4回 外部講師による講演満足度：80%以上	ちょっと見週間2回 ちゃんと見週間2回 計4回実施 満足度80%	B	行事の合間に設定されていたので、実施時期を再検討していく。 新学習指導要領に適応した、実践と評価の方法について、研修する機会を設ける。

様式第3号

イ	こころざしを育むための進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計10回以上	<p>中学は中1のみ3回実施。 高2は大学出張講義で様々な学部の先生を招き、大学の講義を生徒向けに実施。 河合塾から講師を招き、進路実現に向けた学習の取り組みなどの講演会を生徒向けに実施した。 中等部・高校普通科・芸術科で総計15回実施。</p>	A	<p>進路指導の繋がりを意識させるような振り返りシートが6年分必要である。</p> <p>生徒にとって志望校を考えるきっかけになった。自分が興味のある学部の講義を聴くことは勉強になったが、興味のある学部を選べなかった生徒への対応が十分でなかった。</p> <p>一部の意識の高い生徒に対しては効果的な講演であったが、成績下位層の生徒へのさらなる働き掛けが必要である。</p>
		<p>中等部：学力到達度調査 評価A以上：27%以上（中3） 高校：国公立大学合格者30%以上（普通科）、芸術系大学合格者70%以上（芸術科）</p>	<p>中3：学習到達度評価A以上が27.6%で上位層は頑張っているが二極化が進む。高校：国公立大学合格者率は現状では不明だが、生徒の実態に合わせて補講等を実施し、目標達成に向けて継続的に指導している。</p>	B	<p>今後、高校進学へ向けて、上位者を伸ばし、下位層の学力向上を図る指導を継続していく。</p> <p>来年度から、共通テストが実施されることもあり、学校全体で進路実現に向けた指導の在り方を再検討していく必要がある。</p>
ウ	中高が連携し、効果的な生徒指導を推進し、規範意識と自己肯定感を高める。	年間の交通事故件数：中等部・高校ともに前年度比減	<p>中等部5件、高校6件 前年度よりも中・高ともに1件増加し、目標達成できなかった。</p>	C	<p>交通安全委員会が活発に活動した。生徒への注意喚起は数多く行ったが、事故件数が若干増加した。 中高連携を密にし、開発的な交通安全指導を行う。</p>
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%（中・高共通）	71.3%（中・高共通）	B	中等部において、肯定的な回答の割合が特に高い。人権教育担当を中心に研修内容を周知し、実践力を身につける研修を継続していく。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%（中・高共通）	73.6%（中・高共通）	B	自己肯定感が高い生徒像がうかがえる。高い自己肯定感が学業生活全般の達成度を引き上げていくことに繋がっていきたい。

様式第3号

		生徒向け「相談室だより」発行：年間計10回	年間5回全生徒に配布した他、HR掲示用を1回掲示した。また、ほっとすぽっと前と1棟2階に教育相談のコーナーを作り、月に1回以上、内容の更新を行った	B	教育相談コーナーの設置により、教育相談室の認知度が上がったほか、現在は特に相談を必要としない生徒についても自己肯定感の向上や不登校などの予防にも繋がったと考えられる。教育相談コーナーの活用が効果的なことがわかり、内容の更新業務に力点を移した。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%(中・高共通)	高校75.3%、中等部86.9%(全体81.1%)	A	中高を総合すれば80%は超えたが、高校の割合が低い。高校での割合をどのように増やしていくかを検討し、改善していく。
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、社会性と自立心を育成する。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上(中・高共通)	高校84.8%、中等部88.7%。中高ともに目標達成した。	A	中高で連携をとり、部活動の在り方を考え、部活動内での人間関係づくりや、より一層部活動の活性化につながる取組を検討していく。
		海外研修で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上 海外交流行事実施：1回以上	事後アンケートでは、普通科は、92.4%芸術科は88.2%。人数比割合91.8%	A	今年初めてのウィーンは、今年度の成果を生かし、さらに工夫できる余地がある。
		ボランティア活動・社会貢献活動・奉仕活動経験生徒：60%以上	高校49.2%、中等部76.5%、全体61.7%概ね目標は達成できた。	B	福祉委員会の活動が充実し、様々な場面で生徒が活動できた。今後も全校生徒に対して、呼びかけ、意識付けを行う。また、行った活動を全体に紹介する場を設けていきたい。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%(中・高共通)	高校80.8%、中等部90% 中高ともに十分に目標達成できた。	A	生徒会活動で生徒の企画を生徒主導で実施することができた。さらに、生徒一人ひとりが活躍できる場を提供できるようにしていく。
		芸術鑑賞教室満足度：80%以上 図書館貸出数：4000冊以上	満足度90.2% 図書館貸出数：3,344冊(1/23) 朝読書実施(中等部は通年)、(高校は朝読書週間年4回実施)	B	日程が過密であることより諸行事の見直しが必要ではないか。全校読書会と朝読書を連携し、本を読むきっかけや機会増加に繋がられた。当日の運営は、時間的制約があるため、やり方を考える必要がある。高校生の貸し出しが少ないので、増やしていきたい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりを推進す	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	参加者(3日間)1,475人(昨年1,489人) アクセス：年間791,700件	C	3年連続の減少となった。広報の仕方も含めて清水南の魅力を来場者に感じてもらえるように改善を行う。ホームページでは、全職員で協力して、学校の様子を毎日アップしており、アクセス増加に繋がっている。

様式第3号

	る。	PTA 総会出席率：50%以上 学年保護者会の出席率：50%以上(中・高共通)	P T A総会出席率 中等部 36.3% 高校 42.9% (中・高共通) 39.6% 学年保護者会出席率 (中・高共通) 59.5%	C	出席率は目標値を下回ったが、欠席者からは委任状をいただいている。高校保護者会では、保護者進路講演会を同時に開催し、出席率の向上に努めた。学校生活に関する情報を保護者と教員が共有できる場を設定し、出席率の増加に繋げていきたい。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部75%、高校45%	防災訓練年間3回実施 (4月、8月、1月) 地域防災訓練参加率 中 61.6% 高 39.6%	C	学校防災推進協力校として、実践的な防災訓練を実施した。また、防災委員会を委員会組織に加え活動を開始させた。今後はより生徒主体の防災組織及び運営をめざし、活動を活発化させる。
		講話や研修等の取組：月1回以上	職員会議時の短時間研修に加え、講師を招請しての研修会等を6回実施した。	A	毎月研修等を行うことは困難であるが、長期休業期間等を利用して、年間15回程度は実施できている。コンプライアンス研修については、マンネリ化しないように工夫していく。
カ	環境美化、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	毎学期末の大掃除の計画、実施がしっかりでき前年度の反省を生かし、校内美化を推進することができた。	A	美化担当の教員が中心となり大掃除や浜清掃、長期休業中のトイレ掃除等がしっかりと計画、実施がされた。今後でもできるところで、校舎内の美化活動を行いたい。 古いトイレは毎日清掃をしても臭いが残るので、業者を入れるなど改修する等の改善が必要である。
		予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	6月の職員会議内で「不適切な会計処理の根絶」をテーマに事例を交え研修会を実施。	A	適正な会計処理が行われた。より効果を高めるため、研修会の時期を早めるよう検討していく。また、さらなる情報発信を丁寧にしていきたい。
		夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均80時間以上の教職員：0% 部活動ガイドラインの遵守	夏季休暇の取得率：100% 一ヶ月平均80時間以上の教職員：1.5% 各顧問は、遵守しようとしている。	B	働き方改革を推進するために、業務改善を進めながら、休暇取得がしやすい職場の雰囲気醸成していく。